

いにしへのツギハメ'08

- 解説シート -

さるかわ

●猿川西ノ森遺跡 (松山市猿川)

猿川西ノ森遺跡は北条平野を流れる立岩川の上流部左岸にあります。発掘調査の結果、縄文時代から中世にかけての遺構・遺物が見つかりました。

特に縄文時代の資料は豊富で、早期(約8,000~9,000年前)の押型文土器や後期(約3,500~4,000年前)の土器や石器類などは注目されます。特に押型文土器は残りが良く、県内では大変貴重な資料です。また、後期後葉の土器(宮滝式)がまとまって見つかったことは、本遺跡の大きな成果の一つと言えます。

さらに、黒曜石については分析の結果、黒色のものは島根県の隠岐産、乳白色は大分県姫島産のものと判明しました。これは当時から海を渡って山陰地方や九州と交流をおこなっていた一つの証拠となるものです



縄文土器(押型文土器)の出土状況

いまばり しんとし

●今治新都市

(今治市阿方・高地・矢田・別名・高橋)

今治新都市開発に伴う一連の遺跡群は、今治平野の北西部にある低い丘陵または谷部に広がっています。長期にわたる発掘調査の結果、弥生時代から中世にかけての集落や古墳群が広がることが明らかになりました。

弥生時代中期後半(約2,000年前)には、阿方頭王遺跡群や高橋佐夜ノ谷遺跡などのように、やや小高い丘陵上に集落が広がっていました。遺跡からは多くの弥生土器や石器、マツリに使われたとされる分銅形土製品などが出土しています。

古墳時代には、有力者のお墓として前方後円墳(別名一本松古墳・高橋仏師1号墳)などが造られ、竪穴住居も周辺に広がることがわかりました。特に古墳時代後期(約1400年前)には、横穴式石室を持った古墳が多く造られ、石室からは須恵器をはじめ、豊富な副葬品が出土しています。



阿方頭王遺跡群での土器出土状況



横穴式石室の様子(高橋仏師2号墳)

● おお く ぼ 大久保遺跡 (西条市小松町妙口)

大久保遺跡(大久保・竹成地区)は、道前平野を流れる中山川の右岸にあります。発掘調査の結果、下層面で弥生時代前期末葉～中期初頭(約2,300年前)の集落、上層面で平安時代(約1,000～1,200年前)の役所に関連すると思われる建物群が見つかりました。

特に注目されるのは、下層面の土坑などから出土した鉄器類で、遠く中国から運ばれたもので国内でも最古級の鉄器との見方もあります。さらに、この鉄器は破片を再利用したことも明らかで、同じ場所から出土した石器類との関係性や集落の性格など、今後注目される遺跡です。



土器・土製品の出土状況

● や た おお つ ぼ 矢田大坪遺跡 (今治市矢田)

矢田大坪遺跡は、今治平野北西部の低い丘陵に挟まれた谷部にあります。発掘調査の結果、縄文時代後期(約4,000年前)から中世にかけての集落が見つかりました。

古墳時代後期(約1,400年前)の竪穴住居は、かなり狭い範囲に重なり合って見つかりました。これは、短期間のうちに住居自体を作りかえていることを示しています。

また、この遺跡では鉄生産と関わりのある鉄鉗(鉄製の火ばさみ)が出土しており、鍛冶工場の可能性が考えられます。さらに、すぐ近くの高橋佐夜ノ谷Ⅱ遺跡で発見された製鉄炉などもあわせて考えると、当地域の鉄生産の歴史を考えるうえで、たいへん貴重な発見であったと思われます。



竪穴住居の切り合い関係

● ばんちょう 番町遺跡 2次 (松山市一番町)

番町遺跡2次調査地は、松山城の南東側(現在の松山地方裁判所内)にあります。発掘調査の結果、江戸時代(17～19世紀)の住まいの一部が見つかりました。

この地には松山藩筆頭家老の屋敷が置かれたことが絵図などで明らかで、今回の調査でも「梅鉢」家紋の軒丸瓦や、肥前国(現在の佐賀県)で作られた陶磁器の碗や皿など、当時の有力層を示す資料が出土しています。

また、中には土製品(土人形)や木製櫛・羽子板などの日常生活の様子を示す遺物も多くみられ、史跡整備が進む松山城周辺の様子を示す良好な資料です。



銅製匙の出土状況